

本校の校内研究について

江東区立大島南央小学校
校長 福田 洋一

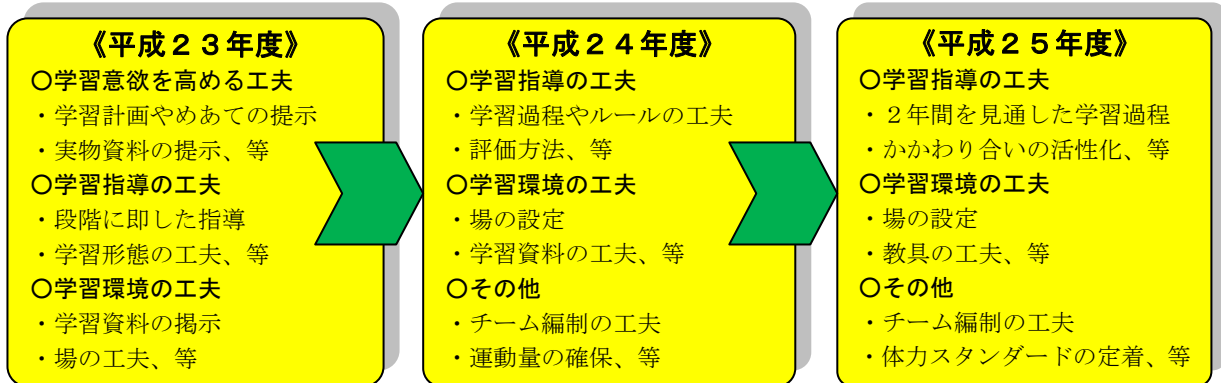
I はじめに

本校は、平成19年4月、二校（旧大島中央小学校と旧大島南小学校）が統合して開校した新設校で、今年で開校8年目を迎える。平成19・20年度には江東区教育委員会研究協力校（研究教科：国語）の指定を受け、研究発表会を行うなど、積極的に校内研究に取り組んできた。

平成23年度からは、学力向上とともに、本校の課題である体力向上に着目し、体育の研究が始まったが、若い教員が多く、「児童の意欲を高めるには…」 「技能指導のポイントは…」 「体育の授業づくりの基本は…」等、正に一からのスタートであった。以後、授業研究と実技研修を中心に3年間体育の研究を進め、おぼろげながら成果が見えてきた。体育を研究教科として取り上げて4年目となる今年度は、公開研究会（自主研究発表会）を開催し、これまで積み上げてきた実践や成果を広く外部に発信する予定である。

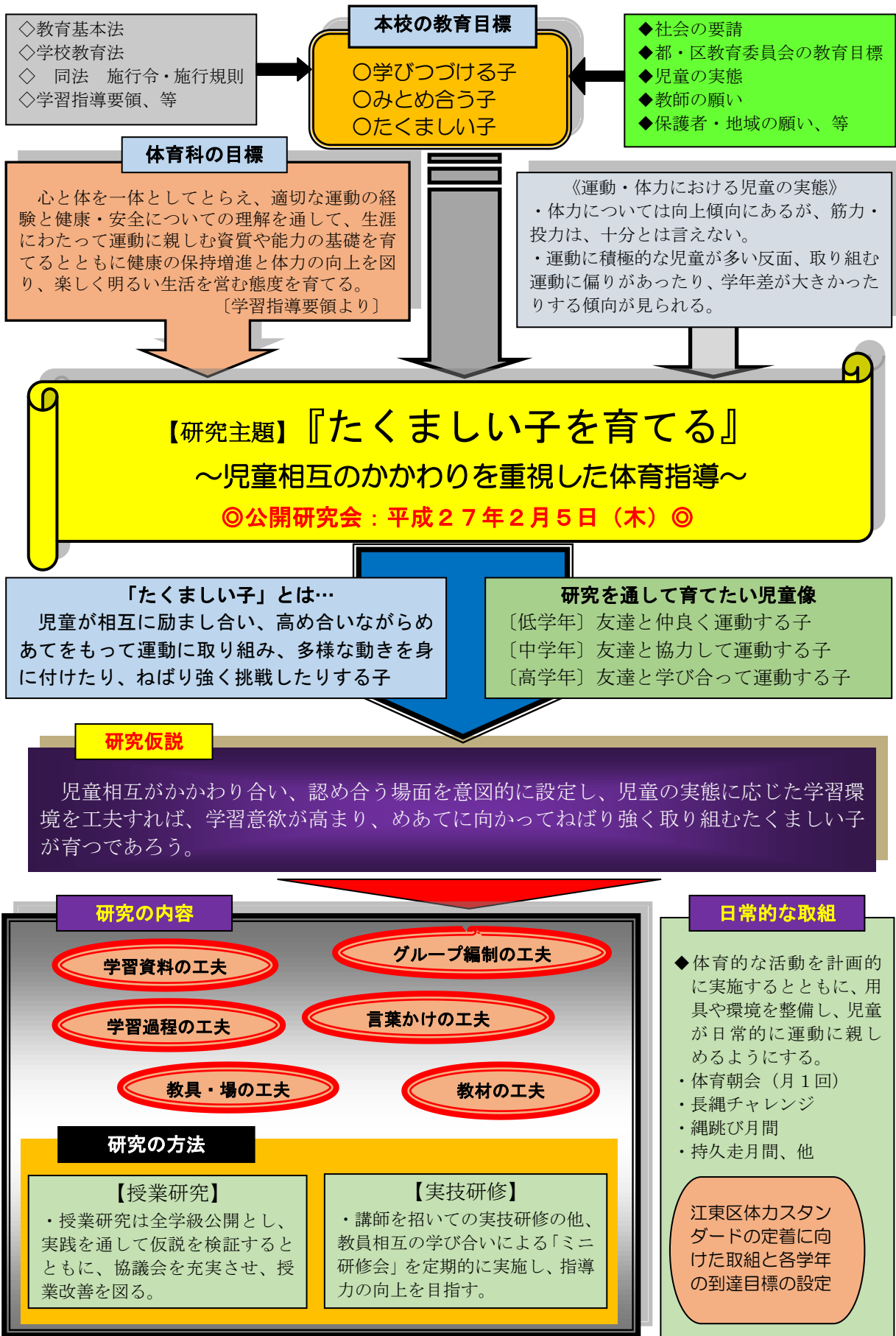


II これまでの研究経過



Ⅲ 今年度の校内研究

1 グランドデザイン



2 研究計画

月	会議等	内容・講師等
4	第1回研究全体会	○研究の概要 ○研究主題・内容・組織等の確認 ○今後の予定、他
5	第2回研究全体会	○講演会「できる・かかわる・わかるを大切にした体育授業の実現」
	実技研修会①	○体カテスト事前研修（正しい測定方法・技能ポイントの確認等）
6	第3回研究全体会	○研究授業①（6年）…ボール運動（ネット型）
7	第4回研究全体会	○研究授業②（3年）…ゲーム（ゴール型）
8	第5回研究全体会	○公開研究会に向けて（係分担・事前準備・当日の時程等）
9	実技研修会②	○器械運動の指導法について
10	第6回研究全体会	○研究授業③（5年）…器械運動（マット運動）
11	第7回研究全体会	○授業研究④（1年）…体づくり運動
12	実技研修③	○内容・講師未定
1	研究作業日	○公開研究会に向けて（プレゼン・発表原稿の確認等）
2	第8回研究全体会 （公開研究会）	○研究授業⑤（2年）…ゲーム（ボールゲーム） ○研究授業⑥（4年）…ゲーム（ゴール型） ○研究発表及び講演会
	第9回研究全体会	○今年度のまとめと次年度の方向性 ○研究集録について、他
3	第10回研究全体会	○次年度の研究について、他

※講師は、大学教授・元校長・区教育委員会指導主事等。

3 授業実践

(1) 第1回研究授業：平成26年6月26日（木）実施

◆学年・単元名

6年・「ソフトバレーボール」（ボール運動）

◆単元の目標

〈技能〉簡易化されたゲームで、チームの係りによる攻撃や守備によって、攻防することができる。

〈態度〉運動に進んで取り組み、ルールを守り助け合ったり、場や用具の安全に気を配ったりして練習やゲームができる。

〈思考・判断〉ルールを工夫したり、自分のチームの特徴に応じた作戦を立てたりすることができる。

◆研究主題に迫るための手立て（抜粋）



- ・技能及び体格を考慮し、力が均等になるようチーム編制を行った。
- ・学習カードに、技能ポイントについての具体的な言葉かけを例示し、児童相互のかかわりを意識させた。
- ・一単位時間の中に「スキルアップタイム」を設け、基本的なボール操作の技能を高められるようにした。

(2) 第2回研究授業：平成26年7月16日（水）実施

◆学年・単元名

3年・「ポートボール」（ゲーム）

◆単元の目標

〈技能〉パスやシュートをしたり、パスがもらえるように空いている場所に動いたりしてゲームをすることができる。

〈態度〉進んで運動に取り組み、規則を守り仲良く運動したり、勝敗を素直に受け入れたり、場や用具の安全に気を付けたりすることができる。

〈思考・判断〉規則を工夫したり、簡単な作戦を立てたりすることができる。

◆研究主題に迫るための手立て（抜粋）

- ・得点の機会が増えるよう、ゴールエリアを2カ所設定した。



- ・運動量を確保するためにチームの人数を3名とした。
- ・児童から出されたアドバイスや励ましの言葉を取り上げ、言葉かけ例として掲示した。
- ・練習方法や個人のめあてを例示し、チームの作戦に応じて選択できるようにした。

IV 実技研修会・日常の取組等

1 実技研修会

- (1) 平成23年度
 - 陸上運動の指導（講師：元区内小学校長 飛田喜久夫先生）
- (2) 平成24年度
 - 跳び箱運動の指導（講師：元区内小学校長 飛田喜久夫先生）
- (3) 平成25年度
 - 陸上運動の指導（講師：国士舘大学教授 細越淳二先生）
 - ボール運動の指導（講師：FC東京担当者）
- (4) 平成26年度
 - 器械運動の指導（講師：国士舘大学教授 細越淳二先生）



※上記の他、体育主任が中心となって、集団行動・水泳・体づくり運動・江東区体カスタンダード・体カテスト等についての実技研修を行った。

2 日常の取組



縄跳び月間



掲示物の工夫



持久走月間



教具の工夫



教具の工夫

3 その他の取組

江東区がホームであるFC東京の選手が、直接児童にサッカーを指導したり、元オリンピック体操選手と交流したりするなど、外部との積極的な連携を通して、たくましい子の育成に努めている。併せて、今年度は「オリンピック教育推進校」（東京都教育委員会）として、体力・運動能力の向上のみならず、オリンピックの意義や歴史等についての理解を深め、児童のスポーツに対する関心・意欲をさらに高めることができるよう、取組を進めていきたい。

V おわりに

体育を研究教科と定め、「たくましい子」の育成を目指し、研究を進めてきた。過去3年間の取組を通して、体力の向上は言うに及ばず、めあての達成に向けて粘り強く運動したり、互いに認め合い、励まし合って学習を進めたりする児童の姿がより多くの学年で見られ、学級経営や児童相互の人間関係にもよい影響を与えたことは大きな成果である。

教員一人一人の成長も見逃せない。児童を常に中心に据えた授業づくりはもちろんのこと、協働性を十分に発揮し、主体的に研究に取り組んだことが、児童のよき変容につながったことは言うまでもない。教員相互も学び合い、授業力の向上が図られたこともうれしい成果である。しかし、本校の研究は、まだ研究の途上にある。今後もさらに研究を深め、児童の健やかな成長と教員の資質向上に努めていきたい。